

三原市立本郷小学校 第4学年 道徳の時間学習指導案

教材名：「大きな絵はがき」

指導者 三原市立本郷小学校 T1 藤澤 真弓
T2 溝上 孝弘

- 1 日 時 平成29年 7月10日(月) 第5校時(13:30~14:15)
- 2 場 所 4年1組教室
- 3 学 年 4年1組(男子18名, 女子14名 計32名)
- 4 主 題 名 友だちのことを考えて B-(9) 友情, 信頼
- 5 本時のねらい 友達である正子のために料金不足のことを言おうかと迷う広子の気持ちを考えることを通して, 友達とよりよい関係を築き, 友達と互いに信頼し合い, 友情を深めていこうとする心情を育てる。
- 6 教材名 「大きな絵はがき」(東京書籍)
- 7 主題設定の理由

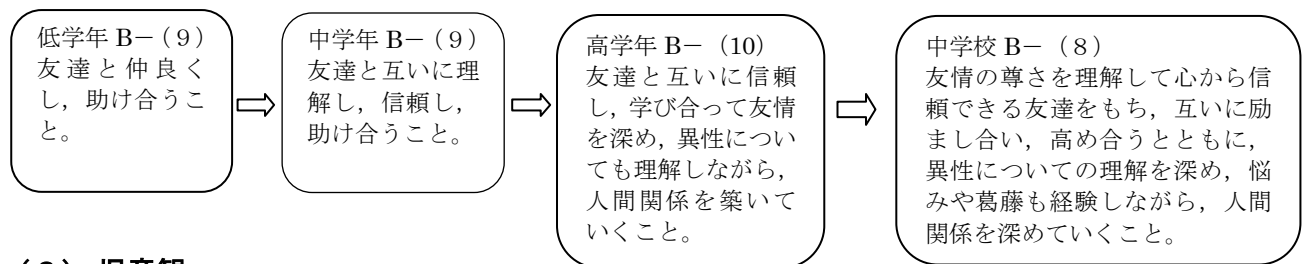
(1) 主題について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「B 主として人との関わりに関すること」の(9 友情, 信頼)の3・4年生指導内容項目の中で、「友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。」を取り上げている。

児童にとって, 友達関係は最も重要な人間関係の一つであり, 友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向づけられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには, 互いを認め合い, 学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い, 協力し合い, 助け合い, 信頼感や友情を育んでいくことができるように指導していくことが大切である。

児童の発達段階においては, 集団との関わりが増え, 友達関係も広がってくる。また, 気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し, 楽しもうとする傾向があり, 集団での活動が盛んになってくる。しかし, 自分の利害にこだわることで, 友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。よって, 友達とのよりよい関係の在り方を考えたり, 互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導していくことが大切である。

【内容項目とその系統】



(2) 児童観

本学級の児童は, 友達が困っている時には進んで声をかけたり, 励ましたりして, 友達との助け合いを大切にしようとする児童が多い。友達関係も良好で, トラブルになった際も, 互いに気持ちを伝え合い, 解決しようとする人が多い。ペアやグループでの学習を日常的に取り入れ, 男女仲良く, 協力することの大切さの指導を継続していることで, 児童アンケートで「学級がすごしやすい」と肯定的に回答した児童は87%であった。「仲が良くケンカが少ないから」「困ったときに友達が助けてくれるから」と, 友達関係の充実に関わる理由を挙げている児童が多かった。

しかし, 自分の不満感から友達への注意が厳しかったり, 反対に関係が壊れることを気にして間違いを指摘できなかったりすることがある。アンケートにおいて「友達ってどんな人ですか」という質問には, 「やさしい人」「仲よくしてくれる(遊んでくれる)人」「助けてくれる人」などの回答が多く, 合わせて88%だった。一方, 「自分のことや気持ちを分かってくれる人」「信頼できる人」「助け合える人」など, 信頼を意識している児童もいた。

本当に相手のためになることを考え, 相手の立場に立って, 言いにくい内容も伝えていくことも

友情であることや「友達だからこそ（友達のために）」という思いで行動することの大切さに気付かせたい。

(3) 指導観

本資料は、広子が転校した仲良しの正子から届いた定形外郵便物の未納不足について、本人にそのことを知らせるべきかどうかと迷い、兄と母の考えも聞いた上で、最終的には正子のためを思い伝えることにするというお話である。友達だからこそどうすればよいのか思い悩む広子の心の揺れと正子に伝えることを決心した広子の気持ちに共感させることで、本当に友達のためを思って行動することの大切さを実感させたい。

指導にあたっては、導入において、「友達に注意されたとき」の気持ちを考えさせ、児童間の認識の違いや疑問が出てくると考える。そこから問題意識をもって本時の学習に臨めるようにしていく。展開前段では、広子の迷いについて問い、「お礼だけ言う」「料金不足を教える」のそれぞれの意見の理由を板書に整理する。その際、どちらの意見も「友達の正子の気持ちを考えている」ことは押さえておく。そして、「あなたが広子だったら、どうするか」という発問で、自分の問題として考えさせる中で、これまでにあった具体的な場面を想起させることにつなげる。中心発問では、自分発見シートに自分の考えを書かせ、正子に教えると決めた広子の気持ちを考えさせていく。まとめとしての展開後段で授業の初めの課題に返し、「友達だからこそできること」について新たな発見を書いていくようにする。本当に友達のためを思った行動の大切さを実感させ、友達と互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てたい。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

- 「自他を尊重し、よりよく生きようとする児童・生徒の育成」
 ～自分・他者・地域との”つながり”を意識した道徳的实践を通して～
 「自分とのつながり」
 ○自己を深く見つめさせる道徳授業の創造
 ・主体的に内面的な学びを深める課題設定・展開・終末のあり方
 ・思いや考えを互いに表現し合える発問・指導方法の工夫

8 本時の展開

(1) 準備物

場面絵、掲示用の短冊、ワークシート（自分発見シート）

(2) 学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	T1	T2	指導上の留意点 (※評価)
導入	1 「友達」について今の自分をふり返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友達に注意されたとき、どんな気持ちになりますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・腹が立つ。 ・優しく言ってほしい。 ・言われなくても分かっているよ。 ・自分だってできてないのに。 ・ありがとう。 ・自分のために言ってくれたんだ。 	板書	発問	○「友達」について意見を交流させる中で、本時の学習への方向付けを行う。 ○ねらいとする道徳的価値に対しての問いをもたせていく。 ○自分発見シートに書かせ、展開後段での正子の思いと比較させる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 友達だから・・・(友達だからこそできることって・・・) </div>			

展 開	2 資料「大きな絵はがき」を聞いて話し合う。	<p>広子さんは何に迷っているのだろうか。</p> <p>○「お礼だけ言う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子にきらわれる。 ・正子を傷つけるかも。 ・うれしかった気持ちだけ伝えたい。 <p>○「料金不足を教える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子のために、やっぱり正しいことを伝えなきゃ。 ・他の友だちにも間違えて送ってしまうかも。 ・自分が正子なら教えてほしい。 ・正子なら分かってくれる。 	資料提示 発問	資料提示 板書	○T1, T2で資料を読む。人物の絵を貼って、場面の状況をとらえさせる。 ○迷っている広子の気持ちに共感させ、中心発問につなげていく。 ○「お礼だけ言う」ときと「教える」ときの理由や広子の気持ちを挙げさせ、板書に整理し、相違点や共通点を明らかにする。
		<p>あなたが「広子」だったらどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが広子だったら、「お礼だけ言う」と思っています。理由は…… ・わたしが広子だったら、料金不足を教えます。理由は…… 	発問	板書	○ペアトークを行い、互いの意見を交流させる。 ○どちらも正子のことを考えていることをおさえる。
		<p>教えることを決めた広子さんは正子さんに対してどんな思いなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達だからこそ、料金不足のことを教えてあげなきゃいけない。 ・正子だったら、きっとわたしの思いも分かってくれるはず。 ・正子がこれから間違えないために教えよう。 	発問	板書	○自分発見シートに自分の考えを書かせる。 ○「教えないままだったらどうなると思ったのかな。」など補助発問を行い、深めていく。
	3 「友達だからこそできること」について考える。	<p>自分のことを思ってくれる「広子」に対して正子はどんな思いをもつでしょうか。</p>	板書	発問	○受け止める側の正子の心情を考えさせ、互いの信頼関係に気付かせていく。
		<p>友達だからこそできることって、どんなことでしょうか。それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いのことを分かり合おうとすること。 ・友達のことを考えて行動すること。 ・お互いに助け合えること。 	発問	板書	※友達と互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情をもち、今後の友達関係について自分なりに発展させていこうとしたか。(ワークシート 発表 見取り)
終 末	4 「友達」に対する、自分の新たな学びを感じる。	<p>信頼し合える友達って……</p>	進行		○「わたしたちの道徳」P.75を読み、余韻をもって終わる。

9 板書計画

